令和5年度　神吉中学校　学校評価（関係者評価）シート

A　できている　　B　だいたいできている　　C　あまりできていない　　D　できていない

重点目標	評価項目	自己評価		改善の方策	自己評価の適切さ（関係者評価）	達成状況
		評価	総合評価			
心の教育の充実	いのちや心を大切にする教育の推進	A	B	・「いのちについて考える日」や「1.17集会」などを継続的に実施し、いのちや心の大切さについて生徒が主体的に考える機会を充実させる。 ・教育相談等の充実により、いじめを未然に防止するとともに「学校生活に関するアンケート（アセス）」や「心の相談アンケート」を活用していじめを積極的に認知し、早期発見・早期対応につなげる。	・神吉中学校の生徒が、学校でのエピソードを溌溂とした表情で話してくれた。生徒が自ら積極的に楽しく学校生活を送っている様子がうかがえる。生徒が、自分の意見を言いやすい雰囲気になってきている。また、相手の気持ちを読み取れる力も身についてきているように思われる。 ・地域で、生徒が元気よくあいさつをしてくれるようになった。非常に生徒の雰囲気がよくなっている。このことは、いじめ防止にもつながるものと考えられる。 ・3年前、コロナ禍により様々な制限があった学年である。学校行事等において、思い切ってチャレンジできることに喜びを感じているものと思われる。このことは保護者も同じである。体育大会等、たくさんの保護者が来校し、学校と保護者が一体となって行事を盛り上げることができていた。 ・学校と保護者が連携しながら、それぞれの立場で、引き続き子どもたちを育成してほしい。 ・いじめは先生たちに気づかれないように行われることが多いことを踏まえ、今年度の生徒会執行部や各クラスの代議員が中心となって実施したいじめ防止学活など、生徒が主体的にいじめ防止に取り組む機会を引き続き大切にしてほしい。 ・生徒が元気になり、学校が活気づいてきているため、達成状況について高く評価できる。	A
	感性に訴える人権教育の推進	B		・今日的な人権課題を取り上げた教職員研修を実施し、教職員の指導力の向上及び人権意識の高揚を図る。 ・多様な価値観や今日的な人権課題の理解促進に向けた指導方法の工夫・改善を行う。		
	考え議論する道徳教育の推進	B		・生徒が物事を多面的・多角的に捉え自分自身のこととして考え、他者や自己との対話により生き方についての考えを深めることができるよう、授業を研究する。 ・豊かな人間性を育てることで、自分を大切にするとともに、互いを思いやり、他者を尊重する心を育むための指導方法を工夫する。		
	互いに認め合い、支え合い、高め合う学級づくり	B		・生徒会活動を充実させ、生徒が自分たちの力で学校を良くしていくという意識を育む。 ・生徒同士が互いに協力して取り組む場面を意図的に設定し、互いに認め合い、支え合い、高め合う集団づくりをめざしていく。		
	多面的な生徒理解を基盤とした教育の推進	B		・一人一人の生徒に丁寧に寄り添う指導と信頼関係の確立に努める。 ・教育相談等の充実により、相談しやすい環境づくりや、生徒の内面理解に努める。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、メンタルサポーター、生徒指導相談員等の専門スタッフと連携した教育活動を推進する。		
未来を切り拓く力の育成	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	B	B	・学習用端末（Chromebook）を効果的に活用して協働学習を取り入れ、生徒が主体的に学ぶ授業づくりに取り組む。 ・「協同的探究学習」の実践等により、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。	・学習用端末を活用するなど、授業改善が急速に進んできている。これまでの授業形態を変えていくのは大変であるが、さらなる有効活用に向け、取組を進めてほしい。 ・授業が楽しいという子どもたちの肯定的回答が多い。引き続き、楽しくわかりやすい授業づくりに努めてほしい。 ・家庭学習の充実が低くなっている原因を考えるべきである。子どもたちがしっかりと目標を持って主体的に学習ができるようにしていく必要がある。学習用端末を家庭でも有効活用していく必要がある。 ・ICTの活用を、教職員の業務改善という視点でも有効活用すべきである。 ・デジタル教科書では音声が流れたり、教科書にもQRコードから建築物などの映像や動物などの鳴き声が聞けたりするなど、充実してきている。そのようなものを活用することにより、子どもたちの興味関心を引き出し、より充実した授業づくりにつなげてほしい。	B
	ICTを活用した情報活用能力の育成及び情報モラル教育の推進	B		・学習用端末の活用に関する教職員研修を継続的に実施し、授業における大型モニターや学習用端末の効果的な活用をさらに推進していく。 ・「情報モラル教室（SNS講習会）」を継続して実施し、ネットの危険性等について生徒や保護者に啓発していく。		
	「生きる力」を育む体験活動の充実	B		・2年生「トライやる・ウィーク」を通して、地域や各事業所の方々からの指導を受けることで、感謝の心や達成感、自己有用感を高める。 ・1年生「わくわくオーケストラ教室」で管弦楽団の生演奏に触れ、感性を磨く機会とする。		
	将来の目標に向けて努力する態度の醸成	B		・生徒会活動や学校行事、体験活動等を通して、社会の一員としての自覚や社会参画への意欲を養う。 ・進路指導等を通じて、自分の適正や興味、関心について考えさせ、将来の目標を持って学習に取り組むことができるようにする。		
生徒一人一人のよさや可能性を引き出す教育の推進	生徒の「自己有用感」や「達成感」の醸成	B	B	・学校行事等において達成可能な目標を設定し、それを着実に達成させることにより成功体験を積み重ねさせる。 ・あらゆる教育活動の場面で、教職員が生徒を認め励ますなど、自己肯定感や自己有用感の醸成につながるような声掛けを意識する。	・大人でも会社で上司に相談しにくいことが多いものである。そのようなことを考えると、相談できる先生がいると回答している生徒が78．4%であることは低いとは言えない。今後も、子どもたちに寄り添った教育を進めてほしい。また、スクールカウンセラーなどの有効活用にも努めてほしい。 ・学校行事は生徒が主体となった感動のあるものになっていると感じている保護者が83．2%であることは非常に高いと感じる。子どもが感動していると評価した保護者が多いということであり、高く評価できる。学校行事の際に、生徒が生き生きと頑張っていた。 ・93．6%の生徒が、学校が楽しいと回答しているのは素晴らしいことである。	A
	きめ細やかな教育活動の実践	B		・「兵庫型学習システム」による少人数授業を通して、きめ細やかな指導を充実させ、基礎学力の定着を図る。		
教育活動のユニバーサルデザイン化の推進	個に応じた指導、支援の充実	B	B	・特別な配慮や支援を必要とする生徒に対して、教職員間や専門スタッフ、関係機関と連携するなど、「チーム学校」として組織的に対応する。 ・特別支援コーディネーターが中心となって、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実を図る。	・階段に手すりを設置したり、段差をなくしたりするなど、環境整備が進んできている。 ・不登校対策としては、不登校に至った原因が多様で、対応も多様となっているが、家庭としっかりと連携しながら対応を進めてほしい。 ・多様な学びの場の提供など、学校に登校させることだけが目標ではなく、社会的に自立することを目標として、個に応じた対応を充実させてほしい。 ・ヤングケアラーなど、子どもの置かれている環境にも留意しておく必要がある。	B
	教室環境、学習環境の整備	B		・校舎内の破損や危険個所があれば市教育委員会と連携しながら早急に対応する。 ・生徒会活動や清掃活動等を通して、生徒が環境美化に主体的に取り組むことができるようにする。 ・相談室や、市教育委員会のわかば教室、サテライト教室など、多様な学びの場を積極的に活用していく。		
	生徒の活動等の工夫、改善	B		・「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」をもとに、共通理解と教職員研修を充実させる。		
保護者や地域と連携した教育活動の展開	開かれた教育活動の推進	A	B	・学校のホームページ等により、今後も引き続き、学校の取組や生徒の活動の様子などを保護者や地域に発信していく。また、スクリレや３９メールについても、さらなる有効活用をめざしていく。 ・学校行事や授業参観、オープンスクールなどにより、学校の教育活動を保護者に公開する機会を充実させる。	・学校のホームページの閲覧者を増やすための工夫が必要である。 ・学校の様子が子どもを通してよくわかると回答している保護者が69．3%となっているが、中学生になると、学校のことを家庭で話をする子どもは減ってくると思われるので、低い結果だとは言えない。 ・地域行事を行っている地区では、中学生が積極的に参加してくれている。 ・スクリレや39メールの効果的な活用を今後も進めてほしい。	B
	地域との連携、協働	B		・学校運営協議会委員から学校運営等に関するご意見をいただきながら、教育活動の改善につなげていく。 ・「創立５０周年記念事業実行委員会」や「制服検討委員会」などを通じて、「地域とともにある学校づくり」を推進していく。		
	よりよい教育活動の実践に向けた協力体制の確立	B		・個別懇談会等を通して、教職員と保護者が互いに連携しながら生徒の健全育成に努める。		